

全国保育士養成協議会東北ブロック

# 保育士養成教科目の教授法研究会

【表現（美術）】の授業概要について

東北福祉大学 教育学部教育学科 青木 一則

河合 規仁

# 本日の報告

前半 担当 青木

- 授業の概要＜保育内容（表現・美術）について＞
- 授業方法について（予測）

後半 担当 河合

- 授業の概要＜表現技術（美術）について＞
- 授業方法について（予測）
- 模擬講義 Webを使った授業の実際

# 臨床美術

- 参加者（高齢者）に美術制作活動を行なってもらうことを通して脳を活性化し、生きる希望を持ってもらう
- 優れたプログラム + 鑑賞会

## オンライン授業の3つの方法

※科目によって、以下のいずれかの方法（またはその組合せ）で開講されます

	資料提示型 (いつでも受講可能)	動画オンデマンド配信型 (いつでも受講可能)	同時双方向型 (決まった授業時間に実施)
授業の受け方	EduTrackに公開された資料を指定された期間内に読み、提出期限までに質問や課題を提出する ※「資料を読む＝授業を受ける」こととなります	EduTrackに公開された授業の動画を指定された期間内に見て、提出期限までに質問や課題を提出する	Google Meetを使って設定された時間割の時間に生中継される授業に参加し、時間内に指示された場合には音声やチャットなどで先生にレスポンスする
使うシステム	EduTrack	EduTrack	Google Meet
受講後の課題	毎回の授業ごとに必ず提出	毎回の授業ごとに必ず提出	提出が求められる場合もある
注意点	1回の授業ごとに資料や動画が提供されるが、計画的に見ないと、指定された期間内に課題が出せず「欠席」になってしまうこと		通信回線の状態が悪いと、音声途切れたり、切断が起きる可能性があること
質問の仕方	EduTrackが原則	EduTrackが原則	Google Meet+受講後EduTrackが原則

# 授業の概要 <保育内容（表現・美術）>

保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む）の教職課程  
コアカリキュラム

全体目標：

幼稚園教育において育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領に示された当該領域のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深めるとともに、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。

## (1) 領域「表現」のねらい及び内容

一般目標：

幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「表現」のねらい及び内容を理解する。

到達目標：

- 幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「表現」のねらい及び内容を理解する。
- 領域「表現」のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している。
- 幼稚園教育における評価の考え方を理解している。
- 領域「表現」に関わる幼児が経験し身に付けていく内容の関連性や小学校の教科等とのつながりを理解している。

## (2) 領域「表現」の指導方法及び保育の構想

一般目標：

幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。

到達目標：

- 幼児の心情・思考及び動き等を視野に入れた**保育の構想**の重要性を理解している。
- 領域「表現」の特性や幼児の体験との関連を考慮した**情報機器及び教材の活用法**を理解し、保育の構想に活用することができる。
- 指導案の構成を理解し、具体的な保育を想定した**指導案を作成**することができる。
- **模擬保育とその振り返り**を通して、保育を改善する視点を身に付けている。
- 領域「表現」の特性に応じた**保育実践の動向**を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。

つまり、

1、保育内容「表現」のとりわけ造形活動について  
ねらい及び内容・指導上の留意点・評価の考え方・関連性について  
理解する



2、保育実践を想定し  
保育の構想・指導案について・情報機器及び教材の活用法  
について理解し



3、実際に授業内で  
構想し、指導案を作成し、模擬保育とその振り返り  
を行う



# 授業モデル

1. 幼児の音楽・造形・身体表現について、映像を用いながら、その表現における幼児の思いや気付き、心の動きなどを読み取り、領域「表現」のねらい及び内容、育みたい資質能力との関連について説明する。
2. 「幼児期の終わりまでに育って欲しい幼児の具体的な姿」について、領域「表現」と「豊かな感性と表現」の関連だけでなく、幼児の表現の活動の中で「協同性」や「言葉による伝え合い」の育ち、「思考の芽生え」等、他領域との関連も含めて具体的に説明する。
3. 幼児期の表現の学びには、小学校の音楽科・図画工作科だけでなく、国語・算数・生活・体育など多教科にわたる教科内容につながりがあることを、具体的に教示して説明する。
4. 乳幼児の日常生活から表現の育ちについて観察したり、幼児の素朴な表現からそこに込められた思いを汲み取ったり、表現にいたるプロセスを想像したりする。また、幼児が美しいものに心を動かしている姿に気付き、幼児自身のイメージをより豊かにする環境の構成や言葉掛けについて考える。

# 授業モデル

5. 幼児期の表現活動は、発表会や展覧会にむけて何かを教え込むものではない。幼児の表現したい気持ちを大切にし、さらに意欲的に表現活動に取り組める工夫として、幼児の表現がより豊かになったり深まったりするような環境構成や言葉掛けについて考える。
6. 幼児の興味や関心をもつような魅力ある環境を理解し、感性的な出会いの豊かな環境や、思いや意図を持って表現することを楽しめる環境の構成を考える。
7. 年齢や発達に応じ、幼児の素朴な表現を生かした保育構想を指導案に取り上げ、その模擬保育と振り返りを行う。
8. 幼児の協同的かつ創造的な表現を育むための、様々な素材を活用した表現活動に関する国内外の取組を紹介し、幼児の表現活動について様々な視点から考える機会をもつ。

# ポイント

1. 映像を用いながら、その表現における幼児の思いや気付き、心の動きなどを読み取る
2. 「協同性」や「言葉による伝え合い」の育ち、「思考の芽生え」について考える
3. 日常生活から表現の育ちについて観察したり、幼児の素朴な表現から環境の構成や言葉掛けを考える
4. 幼児の表現したい気持ちを大切にし、さらに意欲的に表現活動に取り組める環境構成や言葉掛けについて考える
5. 幼児の興味や関心をもつような魅力ある環境構成を考える
6. 保育構想を指導案に取り上げ、その模擬保育と振り返りを行う

# 授業に落とし込む

1. 映像を用いながら、その表現における幼児の思いや気付き、心の動きなどを読み取る
2. 「協同性」や「言葉による伝え合い」の育ち、「思考の芽生え」について考える
3. 日常生活から表現の育ちについて観察したり、幼児の素朴な表現から環境の構成や言葉掛けを考える
4. 幼児の表現したい気持ちを大切にし、さらに意欲的に表現活動に取り組める環境構成や言葉掛けについて考える
5. 幼児の興味や関心をもつような魅力ある環境構成を考える
6. 保育構想を指導案に取り上げ、その模擬保育と振り返りを行う



1. ビデオ教材や、実践記録を視聴し**ディスカッション**を行う
2. 「協同性」や「言葉による伝え合い」が行われるような**制作体験**を行い、実体験を元に振り返り、理解を深める
3. 日常生活から表現の育ちについて、**事例**を紹介し、学外学習との連動によって理解する
4. 自身の**表現活動**の中で、特に「言葉掛け」について教員や学生同士で意識して行い、実感と共に理解する
5. 様々な**表現方法を体験**し、保育における魅力ある環境構成を考える
6. 仮想による**保育構想による指導案作成と模擬保育実践**と振り返りを行う

# 保育内容（表現・美術）の理論と方法＊新 保育内容研究（表現・美術）＊旧 のこれまで

- 通年授業 履修2年生以上
- 1クラス 最大45名程度 （4クラス設定）

## <内容>

- ① **講義系**（領域「表現」の理解、造形の発達、造形の実際、指導案について、環境構成についてなど）
- ② **実技系**（共同制作、個別制作、教材研究、実践プログラム紹介）
- ③ **実践系**（鑑賞会、ロールプレイ、模擬保育）

を織り交ぜ実施している

# ① 講義系 対面

- 映像をもとにディスカッションを行う



「0歳児クラスの造形」



「2歳児クラスの造形」

ビデオを視聴し、映像にあったプログラムを体験したり、  
気づきを共有することで造形活動のポイントを理解する

## ②実技系 対面

- 制作体験により、「協同性」「言葉による伝え合い」「思考の芽生え」に着目する
- その過程で特に「言葉掛け」について意識して行い、保育における「評価」の考え方に結び付けていく



全て共同制作（グループワーク）による相互作用によって成り立っている  
また、美術の経験の少ない学生の本質を理解する貴重な体験となっている

### ③実践系 **対面**

- 仮想による**保育構想による指導案作成**と**模擬保育実践**と振り返りを行う



それまで蓄積してきた断片的な学びを統合化する為に有効な方法